



近藤大介議員

問 農産物加工施設が建設される。

① 必要性、目的は。
② 製品の販売計画、収支計画は。

③ 製造商品の主力はコロッケと聞く。町内のジャガイモの生産量は少なく、本場にそれで農業の活性化がはかれるのか。

答 森田町長

① 町内産品の高付加価値化による生産者所得の向上、形状の不ぞろいを理由に規格外品として処理されていた野菜類の活用、地場における雇用の創出、大山ブランドの推進、食育の推進など。

② 操業初年度の売り上げ目標として約6000万円を見込んでいる。

③ コロッケもだが、主



3月に完成する農産物加工施設

農産物加工施設で作るものは

町長

レトルトカレー・コロッケなど

力としては、業務用を含むレトルトのカレーやどろみ物で、他に、メンチカツ・ハンバーグ・つくね等を計画している。使用する原材料は、町内産の牛肉・豚肉・鶏肉・キャベツ・玉ねぎ・ジャガイモ等14種類の野菜である。収穫までに時間がかかるものもあるが、生産計画を立て、町内農家に作ってもらおう。加工施設で扱う原材料は、地元のものを使えば、生産者に寄与できると考える。

どうなる恵みの里づくり

町長 事業は進めていく

問

① 恵みの里づくり計画実現に向けて、公社が果たす役割は。

② 計画は、今年度が最終年になっている。恵みの里づくりが完成したとは言えない。今後、恵みの里づくり計画をどのように実現していくか。
③ 道の駅を生かした情報発信、観光地づくりが不十分ではないか。

答 森田町長

① 生産者所得の向上や雇用促進に直接寄与でき

人工芝グラウンドで合宿誘致を

町長 検討はこれから

る組織であり、計画実現に対し重要な役割を果たすべき組織であると認識している。

② 計画の進み具合は、点検を行っている。今年度が3年計画の最後だが、来年度以降も総合計画の見直しと合わせ、達成が不十分な事業は、計画を達成していかなければならないと考えている。

③ 十分でない認識している。今後、公社と二人三脚で体制を強化し、体験型観光の推進など具体的な事業展開をしていきたい。

問

山香荘のグラウンドを人工芝のサッカー場にする構想があるが、整備の目的、概要は。

夕陽の丘神田・山香荘のグラウンドを含めた経営は、年間1000万円程度の赤字が特別会計から出ている。春夏の長期休暇のときは、中高生・大学生などの合宿等でフル稼働している。

人工芝で整備し直せば、芝の養生のためにグラウンド利用を制限する必要がなくなり、大山寺の旅館がスポーツ合宿を誘致するのに大変有効であり、県内の各種大会、中国5県の大大会を誘致するのにも大変有利になると考える。

答 森田町長

まだ具体的な検討には至っていない。山香荘の活用は、さまざまな意見をいただきながら進めていきたい。